

体がままならないということ

私は2000年、21歳で就職し、東京に引っ越しました。当時JC0事故後1年目。私は何も知らずに「スーパーではありえないほど安い値段の八百屋」の野菜ばかり食べていました。普通のサイズの人参が5~6本入ったのが、1袋70円ほど(普通のスーパーなら200円くらい)、大きいじゃがいもが5~6個はあったのが100円(普通のスーパーなら250円くらい)といった感じで、千葉、茨城、栃木、埼玉産が多かったと思います。

就職し、半年もすると、首に接触性皮膚炎ができ、何をしても治りません。はじめの半年か1年は顔にも広がってました。(その後10年間治りませんでした)同じ頃やたらと微熱がでて(36.7~36.9程度)2週間から数ヶ月、何をしても下がらないということも、24歳ごろまで何度もありました。

その後、今度は急に仕事のりのりで止まらなくなることがしょっちゅう。その反動で気分が落ちたり、仕事の能率が下がりそうなところをプライドが許さず、ペースを落とさないように仕事をし、結局口もきけず、動くこともできないうつ状態が長く現れるようになりました。

ただの躁うつ病かもしれませんが、発現しやすい年代だったのかも知れません。けれども、ホルモン不調など具合の悪い、あるいは悪そうな同年代や若い子がやたら多い、若い人間というのはこんなに具合がわるいものなのだろうか、不思議に思っ

ていました。

あと東京にいた時に不思議だったのは、外食が少し続くと、必ず具合が悪くなることでした。「ま〇や」や「よ〇のや」「お〇のや」のようなチェーンだけでなく、目の前で調理してる個人経営の定食屋でもです。

結局、うつ状態に耐えられず、仕事をやめました。その頃の症状が1番激しかった。熱は下がらず、いくら寝ても体が殆ど動かない、一言しゃべると、3日は何もできなくなる。ゼリーのような白い下痢が何週も続き、その間は麺つゆ(母の手作り)と、重湯しか飲めませんでした。

その後、分子栄養学を知り、抗鬱剤をやめ、サプリメント治療(場合によっては新薬併用)に移りました(この頃の記憶はとても曖昧で、少し時期等違うかも知れません)

焦燥感がひどく、「もうましになった」と1年?ほどで仕事を自宅ではじめ、その後また東京に勤めに通いました。ただ、サプリメントと、睡眠薬は欠かせませんでした。

けれど、どうしても「普通の体調」というものが戻らないのです。どんなに勉強しても、どんなに知識をつけても、勤めを再開して3年目、私は絵を描く仕事をしているのですが、色彩感覚や、絵の細かいニュアンスの目に見えての劣化が、しょっちゅう現れるようになりました。

そして、「嬉しい」「楽しい」が全く感じられない地獄に戻りました。人間からこの感覚を奪うと、こんなにも苦しいものかと再度

思い知りました。「つまらない」とかいう感覚ではありません。「苦しい」のです。悶絶するほどに苦しい。「これから解放されるなら、本当に死にたい」というもののなのです。(略)

ただ私は運が本当によかった。「もう耐えられない、本当に死のうか」と思う頃に、必ず知人友人と会う機会があったのです。

会うたび、『会ってからすぐ死んだらこの人が「なぜ止められなかったのか」と苦しむだろう、死ぬのはもうしばらく待とう』と、自殺を思いとどまっていました。

その後、サプリメントの高価さと、効果の薄れから、保険が利く漢方薬を試しましたがあまり効かず、

近所(東京の〇市)にたまたまあった漢方処方病院に行き、処方してもらったところ、格段に効いたので、「やっと完璧に元気になれるかも」と、希望を持ったのでした。けれど、ある程度良くなると、あとは打ち止めという感じでした。少しずつ「嬉しい」「楽しい」はもどってきたものの、やはり納得の行く仕事はできず、しょっちゅう処方を変えないと体調を維持できませんでした。「もう私は漢方薬に頼らないと生きていけない人間なんだな」と思っていました。

3.11が起きたのは漢方に変えてから3年ほどの頃で、体調考慮の結果、既に夫婦で自宅勤務になっていました。その後、関東の野菜を一切食べなくなりました。皮膚に炎症があると、そこから要らぬ被曝をすると知り、ずっ

と諦めていた首の皮膚炎に、またステロイド剤を処方してもらったところ、1,2ヶ月ほどで治りました。何度も何度も、ステロイド剤を何ヶ月も正しく厚く塗って、きちんと医者指示に従って薬を減らすと必ず再発するので、何年も痒いまま放置していたのに。

そして9月に兵庫県三木市に引っ越してきました。〇市の漢方医に、2ヶ月分の薬を何種類ももらって、その間に漢方医をこちらでさがす予定でした。しかしやはり、三木でもけっこう田舎に引っ越したので、なかなか漢方医は見つかりません。持っている薬が突然無くならないよう、少しづつ飲んでいました。

ある日、薬を飲むと逆に体調が悪くなる感じになり(それまでもたまにあったが、2週間もやめると、頭がぼーっとして何もできなくなり、また別の漢方を処方してもらってました)、しばらく飲まなかったが、体調が悪くならない。…気がつく、すっかりなんの薬もいらぬ体になっていました。今では、「多少の無理ができる」ようにまできました。本当に大げさではなく、奇跡だと思いました。

…ただ、放射能の知識が増すにつれて、だんだん、「奇跡」ではなかったのでは？と思うようになりました。JCO事故後の周辺の野菜が、タダ同然で流通していたことも知りました。

確かに、生活習慣や、子どもの頃にチェルノブイリがあったり、虫歯が多くて歯科医でレントゲンを取る機会が多かったり、7

～9歳の頃も原因不明にだるくてCTを何度か受けたり等、原因は特定が難しいです。

ただ、関東を離れた途端に、すっかり体調が回復したのは紛れも無い事実です。

私の母は、手足の爪に生まれつき欠損があるのですが、その母も、私の体調不良の発現と同じ頃から、溢れんばかりの鼻血が出ます。遺伝子に欠損のある人は、放射能に弱いとも知りました。

…長くなりましたが、何を言いたいかという、「体と心がままならない事程つらいことはない」ということです。人が「これをすれば治る」というのも全く効かない、自分が調べたことでも全く良くならない。ある程度良くなって、「完治できるかも」と思っても、結局自分が求める「普通の体調」「幸せな感情」が手に入らないどころか、一定期間後に必ず後退する…。

「放射能を軽く見る人」は、「病気や体のバランスを崩すことの恐ろしさを知らない人」と思います。這い上がれない、出口の見えない「自分のままならなさ」は、本当に、生き地獄です。

もちろんもっと苦痛の多い病気や怪我、様々な後遺症で、私より苦しんでいる人は、この世にあふれるほどいるでしょう。広島、長崎の原爆被爆者の方たちの苦しみは、全くこんなものではないでしょう。比べるのも失礼です。けれども、私程度の症状でも、生地獄というほどに苦しいのです。

自ら「出口の見えないままならなさ」に突入する必要がある、どこにあるでしょう。JCO事故という、今の福島とは比べ物にならないほど小さな原発事故でも、このようなことの原因かも知れないのです。汚染された地から離れれば、今関東で3.11以降原因不明の体調不良に苦しむ人の何割かは、確実に良くなるはずで

す。逆に言えば、今のはげしい汚染が原因で、私の何十倍、何万倍もの苦しみを味わう人が大勢出るかもしれないということです。ずっと健康だった人に、この苦しみは分からないでしょう。けれど、1度くらいは風を引いたり、熱を出したりしたことがありませんか？その熱のある状態が、ずーーーーーっといつまでもいつまでも途絶えること無く、何年、何十年ずっと続くことに、耐えられますか？どんなに知識をつけてもどんなに努力しても報われず、熱が出た状態が止まらないことに、耐えられますか？悲しい気持ち理由なくずっと続き、全く這い上がれないことに、耐えられますか？「体を崩す」というのは、そういうことなのです。

私も、あと1年主人と出会うのが遅かったら、きっと死んでいたでしょう。

そんな苦しみを、自ら選ぶのだけは、やめて下さい。

「三木こどもみらい」